

2018年日本経済の課題

立正大学経済学部教授
吉川 洋

- *消費の弱さが日本経済の弱点
- *輸出主導だった戦前の日本経済
- *100年後の日本の人口は100年前と同じ
- *閉塞感の背景にある所得格差の問題
- *所得再分配で下がる日本のジニ係数
- *19世紀以来、格差に対処した社会保障制度
- *十分税金を払っていない日本人
- *物価上昇率2%への拘りは間違いない
- *経済成長と人口増は無関係
- *イノベーションで重要な需要側の役割



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、現在東大から立正大学に移られましたが、よくご存じの吉川先生に来ていただきました。景気は順調に拡大していると政府も言っておりますし、雇用状況もよくなっているというようなこともあります。心配をすれば切りがないいろんな問題が日本経済には内包されています。ここにいらつしやる皆さんも、そのことを懸念されている方が多いと思います。

今日は、そういった日本経済の抱えるさまざまな課題について本質的な視点からの議論を吉川先生からしていただけるということでございます。

それでは先生、よろしくお願いいたします。（拍手）

消費の弱さが日本経済の弱点

吉川 ご紹介にあずかりました吉川でございます。先ほど理事長のお話にもありましたけれども、皆さんご存じのとおり日本経済はとりえず順調ですよね。たとえば人手不足ということが言われて、もちろん失業率も2・7と低いですし、先日も新聞に有効求人倍率1・5幾つというの、何と1974年以来の高い水準にあると書いてありました。たまたま1974年というのは私が大学を出た年でありますので、それを見ながらやれやれ、すごい話だなと。40何年ぶりの高さ、人手不足と。

それから、株も一応上がっております。年初はたいへんな上がり方だった。ただ、その後何